



HORIKOSHI Yoshiyuki

— Le mensonge autoréférentiel et la polyphonie —

18 – 26.Avril.2026

アクリル絵具を油絵具で描くことでアクリル絵具についての言及がされなくなる。アクリル絵具について思考しようとする油絵具が現れてしまいます。それは表象を持たないモチーフ。表象を持たない絵画を描いたという点で、それは絵具のみを見せ、そこに表象を生じさせないことを表そうとした抽象表現主義の別バージョンと捉えることもできる。それは以前ジャスパー・ジョーンズが行ったジョークとも似ている。創造すること、そこに私の制作はあります。

それは抽象表現主義の画家が絵から取り除こうとした何かと同じなのかもしれない。直線とモチーフと媒体のポリフォニックを行なっているのかもしれない。絵画的ポリフォニックが今までとは別の絵画を見せられるのではないと思いつくしている。直線はそれ自体では基本的なものであるが、複数の交わりと像をなすと見ようとする。ここであえて何でも無いものとし見ることが可能であるならばこの直線たちは抽象であろう。この三重の旋律を交わらせたく描いている。

直線、幾何学的意味で基本的と考えることはできるだろう。基本的を目指すのは写すこと、模倣すること、表象すること、それらは見せかけであるという存在を、表そうとする試み。だが、線は形を生むもの、表象を生むと見られがちである。どれだけ無意味な直線の集まりが引けるだろうか。

抽象画の現前への課題、物質を見せるということは不在ではないのでその部分で表象作品と同列の存在。だが、その物質が精神に変貌するという理想的差延が起こるならば、パロールになれるだろう。抽象表現主義者の用いた絵具の物質感物質性-廃棄物-には当たらないであろう。不在の作品が光の暴力に対する光の暴力となっているのだから。

絵の具に解釈について

絵具の媒体として、そのものでありかつ表象であるという立場を私はとっています。絵具が表象を持つことは表現を持つことと言え、表現はモチーフが持っていない内容を表すことができる。表象が表現を持つと言えるのは因果的起源を持つ表現ではなく、メタファーとしての表現であり、そのようなものであれば表象として感情を表現することもできる。

媒体として、意味、感情、それとは別に道具として、新しく作られた道具はそれに伴ってそれを活用するためのシステムが構築される。道具の発明としての絵具。それを新たな意味での道具として発明することで、その道具を活用するための関連した道具が次々と発明され、新たなシステムができるのではないかという絵具の新たな解釈を創りたいという希望から絵具を物質でも媒体でもない何か新たな解釈を試みたいのです。

作品の主題が変わると作品の構造も変貌するのかもしれない。それは主題と残りのものは背景という意味ではなく、作品の構造自体が主題の関数であるという意味においてである。残りのものは背景に属するものと構造に属するものに分けられるのかもしれない。そのような点を考慮すると、複数の構造を持つ作品とも受け取れるかもしれない。

芸術作品の観念論を語ろうとしているのだから。もちろん対象としての実在論の部分もあります。

これらが今回の作品たちのあり方になります。これらのものがどのように鑑賞していただけるのかにはわかりません。それは私が現時点の私をどのような色を持っているのかを知らないのと同じように。私にとっては透明なのです。私の様式を私が知ることは現時点ではできないでしょう。

GALERIE SUIRAN

「見えない旋律を紡ぐ」

「絵画とは一体、何でできているのか」——堀越吉行氏の作品は、そんな根源的な問いを私たちに投げかけます。

本来、形を作るための「線」や、色を塗るための「絵の具」。堀越氏はそれらを単なる道具としてではなく、互いに響き合う独立した旋律(ポリフォニー)として描き出します。アクリルと油彩を複雑に交錯させ、意味や感情を超えた「絵画そのものの実在」を追求するその試みは、私たちが知る絵画の枠組みを鮮やかに飛び越えてゆきます。

作家自身が「透明」と語る、作為のない純粋な表現の地平。そこに何が現れるのか。新しく発明された装置のような、未知の視覚体験となるのか?ぜひ会場でご高覧ください。

画廊主 梅津宏規

「Acrylic 20」F10 キャンバスに油彩 2026



2026年画廊企画 PART4

堀越吉行 展

— 自己指示的虚偽とポリフォニック

2026年4月18日[土] - 26日[日]

10:30-19:00(21日火曜休廊・最終日 17:00迄)

▶展示動画及び作品のネット購入は会期初日から<http://ameblo.jp/suirancom/>で

HIRIKOSHI Yoshiyuki Profile

1975 群馬県前橋市生まれ /14 個展 同'16・'17・'18 (map前橋/市民ギャラリー) /'17 G展 同'18/'19/'21 (Art Gallery Memojacq/Brussels・ベルギー) /'18 ギャラリーTEN (谷中) /'20 前橋の美術2020(アーツ前橋・群馬) / 「18人の表現者たち展」(K's Gallery・銀座) / 未来抽象芸術展 Future Abstract Art Exhibition Vol.16~芸術家の挑戦~(こくみん共済 coopホール)/スペース・ゼロギャラリー・展示室(同'21/'22) /個展 同'22・'23(LAB Gallery/ケベック・カナダ) /'22 個展 E/C Gallery (東京・原宿) /'24 前橋の美術 - やわらかなバトーン(アーツ前橋・群馬) / 桐生市有鄰館芸術祭ピエンナーレ2024(有鄰館・群馬) /'25 「Red light」(画廊翠戀・前橋) / 「map art fair 2025 Winter」(map前橋"市民"ギャラリー・前橋) / '26 「Re:もう一つの前橋の美術2026」(画廊翠戀・前橋)[現在]無所属/藤岡市在住



HORIKOSHI Yoshiyuki QR



371-0801 群馬県前橋市文京町 1-47-1
TEL 027(223)6312(代) FAX 027(221)5909
E-mail suiran@suiran.com URL <http://suiran.com/>

